

令和5年
11月号

赤れんが通信

北海道



天気がいいから、旅行しよう♪



皆さん、三連休の時、どこか素敵な場所に旅行しませんか？北海道には魅力的な観光地がたくさんあります。美しい自然、歴史ある町、美味しい食べ物、どれも楽しい体験が待っています。リラックスして楽しむ準備はできていますか？それでは、さっそく北海道の魅力に浸ってみましょう！

札幌駅からJR特急で5時間ぐらいゆられると **日本最北の駅—稚内駅** に到着します。ロシアに近く、道案内のための青看板がロシア語も表記されていて、沿道のカラフルな家々は異国情緒にあふれています。静かな海辺の町ですが、観光客でにぎわっていました。緯度が高いため夏は涼しく、避暑地として最適です。

「日本最北端」と書かれた店が並び、どこまでも続く海を見渡せる **宗谷岬** は、海と空が一直線に並び、稚内一の観光スポットです。ここではがきを買って、遠く離れた親戚や将来の自分に送るのもいい選択だと思います。



夕日が沈む頃、**野寒布岬** に夕日を見に行くと、広場にいる象徴的なイルカが夕日をバックにかわいらしく見えます。残念ながら、ここはいつも晴れているわけではなく、ほとんどは曇り空で、夕日は雲の陰に隠れ、照れくさそうに残照を見せています。

稚内市から **利尻島** へはフェリーで約2時間、海の風景を楽しみながらの船旅も魅力の一つです。島に着いたら、時間に余裕があればレンタサイクルで海岸沿いを走るのもおすすめです。日の光を体に浴び、潮風を顔に受け、波の音を耳にし、たまに海鳥が海上を飛び交えば、自然の静けさと美しさを感じることができます。

北海道のお土産のパッケージに描かれている **利尻山** には、森林浴やハイキング、キャンプを楽しむ多くの観光客が訪れます。夜は麓でキャンプをして星空を見上げ、朝は早起きして森歩きや登山することができます。標高が上がるにつれて木々は疎らになって、景色が開けてきます。自然は私たちに強靭と毅然を教えてくれ、頂上へ導いてくれます。

一日の終わりには、最北の温泉に入ってリラックスします。大自然の恵みを満喫できる旅だと思います。



中華人民共和国成立74周年 及び中日平和友好条約締結45周年祝賀レセプション

2023年9月25日、駐札幌総領事館が中華人民共和国成立74周年及び中日平和友好条約締結45周年祝賀レセプションを札幌市パークホテルで開催しました。夏少傑駐札幌総領事館代理総領事、浦本元人北海道副知事などの代表者約450人が一堂に会しました。



夏少傑代理総領事は祝辞において以下のように述べました。中国共産党の指導のもと、新中国は世間に注目されるすばらしい成果をあげました。今年には中日平和友好条約締結45周年に当たり、両国関係が直面している複雑な課題にもかかわらず、中日関係の重要性は変わっておらず、平和、友好、協力という全般的な方向性を変えることはできません。その後、第2回さっぽろチャイナフェスティバルの準備状況を紹介し、来賓の積極的な参加を歓迎しました。

浦本元人北海道副知事は祝辞において以下のように述べました。北海道と黒竜江省とは、友好提携を締結し今年で37周年となり、地域間において文化、スポーツ、経済など着実に交流の歩みを進めてきたところです。コロナ禍の影響により、3年以上の相互に訪問して交流することが困難な状況でしたが、今年6月にはハルビン国際経済貿易商談会が開催されるなど地域間の交流は徐々に回復し始めました。そして7月には、北海道と中国の直行便も再開され、10月には北京市に学生団体が訪問する予定となっています。



北海道議会副議長、札幌市副市長、札幌市議会議長、北海道日中友好協会会長、岩手県知事、青森県知事、秋田県知事、岩手県日中友好協合理事長は祝辞において、両国友好協力関係の発展に美しい期待を寄せています。



1.レセプション現場

3.中日両国の芸術家が民族楽器を共演する

2.中国国家宣伝ビデオと「私と中国の物語」を見る

4.中日友好条約締結45周年記念写真展

国慶節の祝い方

中華人民共和国の成立を記念して、毎年10月1日は「国慶節」と定められます。

国慶節は中国にとって非常に重要な祝日で、一般的には7日間の連休があり、「十一ゴールデンウィーク」とも呼ばれます。国慶節の前日には、天安門広場の中央に大きな花壇には、牡丹、モクレン、フヨウ、コウシンバラなど、富貴と繁栄、平和と幸福を象徴する花々が咲き誇ります。さらに、軍事パレード、国旗掲揚式、花車パレード、花火大会、演芸公演など様々な祝賀行事も行っています。今年の中秋節は9月29日にあたり、国慶節に繋がって8日間の連休となりました。秋の気候が快適で、家族で旅行する人も多いため、各地の観光名所は観光客の急増しました。国慶節は国の独立と団結を祝う日であり、盛大な祝賀行事に参加したり、家族や友人とこの特別な日を過ごしたり、みんなの国への愛と誇りを表す日です。



ハルビンの国慶節の様子

盛大な祝賀行事に参加したり、家族や友人とこの特別な日を



中秋節

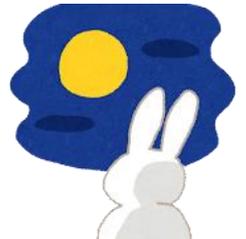
中秋節は旧暦の8月15日にあたり、春節、清明節、端午節とともに中国の伝統的な四大節句の一つです。その起源は、秋の収穫を祝う古代中国の農耕社会にまで遡ることができます。そのため、中秋節は常に秋の真ん中にあたり、「仲秋節」とも呼ばれます。



中秋節の夜は雲や霧が少なく、月が大きく丸く、月明かりが明るく澄んでいます。月餅を食べるのは、中国全土で欠かせない風習です。月餅は丸いお菓子で、五仁チャーシュー、こしあん、蓮の実ペースト、果物、チョコレート、アイスクリームなど、さまざまな餡が入ります。最も伝統的な味は五仁チャーシューで、ピーナッツ、ゴマ、クルミ、アーモンド、ヒマワリの種など5種類の材料を揚げて皮をむき、切り刻んで砂糖と混ぜたもので、高齢者にとっても人気があります。若い人は果物やチョコレート、アイスクリームなどモダンな味を好みます。月餅は団欒を象徴し、人々はお祝いの食べ物として、家族と分け合ったり、友人や親戚に贈ったり、月に供えたりします。

また、中秋の夜には、季節の果物やナッツも欠かせないです。現代では、中秋節は家族で団欒し、食べ物を分かち合い、満月を楽しみ、色とりどりのランタンを灯し、地方なりのお祝いに参加することで祝われます。だから、若者たちは中秋節を「団欒節」や「月餅節」とも呼びます。

宋代の詩人、蘇軾（そしよく）は、中秋節の夜に酒に酔って帰ってきて、弟を恋しく思う気持ちを詩に詠みました。「人有悲欢离合，月有阴晴圆缺，此事古难全。但愿人长久，千里共婵娟」。意味は、人には悲しみも喜びもあり、月にも浮き沈みがあり、このことは決して解決できません。たとえ千里の山や川に隔てられていたとしても、遠く離れた場所にいる友人や親戚が、私たちが一緒にいた時と同じように、同じ月の光を浴び、安全で幸せであることを願うばかりです。これは、中秋節の夜に弟の蘇轍を懐かしむの言葉であり、別れの辛さを味わっているすべての人々への祝福の言葉でもあります。



今はみんなが中秋節の時、お互いにお祝いのメッセージを送り、たとえば「中秋節おめでとうございます。家族の幸せと健康をお祈り申し上げます。」など、祝福の気持ちを伝えます。



お年寄りに人気がある旧式の月餅



若者に人気がある新式の月餅



札幌市民防災センター



1923年に日本を襲った関東大震災を契機に、毎年9月1日は「防災日」と定められています。この期間中、政府、学校、地方公共団体は、防災意識を高め、緊急事態に正確に対処するため、防災に関する教育活動と訓練を実施します。北海道庁でも今年、巨大地震を想定したシェイクアウト防災訓練を実施しました。道職員は「まず低く、頭を守り、動かない」の三つの動作で身を守る訓練を行いました。

この機会に、国際交流員3人が札幌市民防災センターを見学しました。札幌市民防災センターは白石区に位置し、地下鉄東西線の駅から徒歩3分ぐらいです。近くにバス停もあり、とても便利です。(10名以上の団体は事前に要約することが必要です。)



防災アプリをダウンロードすることができます



ここはいろいろな展示と疑似体験ができる体験型学習施設です。例えば、災害を想定した体験コーナーでは、3D映像による地震や津波、土砂崩れ、都市型水害などをバーチャル体験し、座席の振動で迫りくる強風を感じることもできます。また、震度7(東日本大震災と同じ震度)の地震や風速30m/sの強風を体験し、煙からの避難行動や消火器の使い方も学ぶことができます。災害の疑似体験を通して、地震や台風、火災した時の緊急行動について学ぶことができます。子ども向けの体験型展示やゲームも多く、家族連れにも最適です。



筆者について

ダイジャイハオ！私は中国東北部にある黒竜江省ハルビン市出身の、趙登越(チョウ トウエツ)と申します。8月から北海道庁国際課で中国国際交流員として着任いたしました。1986年、黒竜江省と北海道は正式に友好省提携を結んで、今年は37年目です。黒竜江省は北海道と同様、夏は涼しいですが、冬は寒くて、雪もたくさん降ります。故郷であるハルビン市は、独特のロシア建築で知られる音楽都市で、「東洋の小パリ」と呼ばれています。皆さん、ぜひ遊びにきてください！

私は大学院2年生の時、弘前大学で1年間の交換留学を経験しました。その時、国際交流センターの教員や担当の先生方がとても親切にしてくれ、日本の文化や風習など教科書には載っていないようなこともたくさん教えてくれました。そのことに感動した私は大学院を卒業した後、黒竜江外国語学院の国際交流センターで働き、当時の教員たちのように、中国の文化や現地の風習などを留学生に伝えるよう、努力してきました。今回北海道に来て、この気持ちは一層強くなりました。中国の魅力を道民の皆さんに伝え、皆様と交流できることを楽しみにしています。これから、どうぞよろしくお願いいたします。



聖ソフィア教会の雪景色(ハルビン)